

# カント哲学 — 美学研究会

## 参加者

砂川優斗(代表)／立命館大学文学研究科 M1  
堀祐輔(副代表)／立命館大学社会学研究科 D3  
尾崎穂／立命館大学文学研究科 M2  
早川奨／立命館大学文学研究科→大阪大学人文学研究科 M1  
河崎照貴／神戸大学国際文化学研究科 M1  
三宅清隆／関西学院大学文学部 B4

またゲストとして小田麟太郎(立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員)が参加した。

## 研究会の概要

本研究会の目的は、哲学-美学に関するカントの議論を、それぞれの専門から解釈することにより、その多角的な意義を明らかにすることにある。『判断力批判』をはじめとするカントの哲学-美学の問題については、近年国内外を問わず様々な議論が展開されている。そこで、我々は、カントの哲学の内在的な研究だけでなく、他の思想家の研究、あるいは他の領域におけるカントの議論の重要性も共有していく必要があると考えた。

本年度はカントの『判断力批判』の第一部に着目し、その読書会を行うとともに、それぞれの専門からカントに関する研究発表を行うことで、多様な観点からのカントの哲学-美学の意義を明らかにした。

## 活動内容

### ①カント『判断力批判』読書会

毎度、担当者が担当範囲に関するレジュメを用意し、内容を概説した。その後、該当範囲の内容とレジュメに基づいて、担当者を中心に皆で議論を行った。

### ②研究発表会(発表のタイトルと発表者)

「正しいカテゴリー」から考える芸術批評——19世紀アングル批評を例に(三宅)

Illegal Aliens と Undocumented Immigrants

——世界公民法から考える人倫の形而上学と移民問題(早川)

ジャン=リュック・ナンシーのカント論における呈示の問題(砂川)

「技術」が隠されるのはなぜか

——カントにおける「自然の技術」概念を手掛かりとして(尾崎)

定言命法をめぐるリオタールとナンシー(小田)

(読書会と研究発表会あわせて計7回)